

報告事項

	開催日・期間	イベント	内容	頁
1	2026 年 2 月 25 日 ～3 月 6 日	パブリックコメント	計画書（案）の公表	1
2	2026 年 3 月 5 日	住民説明会	計画書（案）の概要説明、 質疑応答	4
3	2026 年 3 月 5 日	職員ワーキング	住民対話の在り方に関するディス カッション	9

1.パブリックコメント意見（原文まま）

計 4 件回答（WEB 回答 3 件、メール回答 1 件、紙面回答 0 件）

	回答方法	意見
	WEB	<p>基本構想 4 島づくり構想図に 公民館を集落拠点にとあります。 人口減少社会にシフトしていく方向性、とても共感できました。しかし実際にすでに 字としての、自治組織としての機能はあまりないのでは？と思う集落 もいくつかあると考えております。</p> <p>田舎特有の人間関係の軋轢(ソフト面ですが、大きな要因かつダイレ クトに組織運営を阻害しているものかと。)や、急激に進む少子高齢 化、高齢者の独居世帯。</p> <p>街灯代金の集金、広報の配布、皆さんそれぞれ物価高等により苦しく なる日々の暮らしに精一杯、隣の方のことを考える余裕もなくなる社 会も近くなる気がしておりますし、すでに来ているような。</p> <p>そういった意味でも字レベルの地域自治よりも人口規模が小さくなっ ていくことで</p> <p>島の行政の方でそういった自治の一部も担っていけるまちづくりの方 向性が大切なように思えます。</p>

		<p>また、前述した余計な人間関係の軋轢を生まないことなども、住民みんなで協力して生きていくには、小さなことですが大切なことなのかもしれません。</p> <p>また、自然保護を超えた再生というところ。</p> <p>島内、下水道の普及率が未だに低いように思います。</p> <p>また下水道が整備されていても各戸からの引き込みまで含めると相当低いかと。</p> <p>やはり町中を歩くと雨の日は特に下水の悪臭は漂っていますし浄化槽も昔に建てられた家のほとんどは</p> <p>トイレ以外の生活排水は浄化槽の出口に直結、そのまま側溝に排出していると聞いたことがあります。</p> <p>多くの田舎でよくあることだとは思いますが</p> <p>衛生的にも、なにより美しい久米島だからこそ、下水の整備、全戸の排水がしっかり下水道に流れて適切に処理されることが自然保護、景観維持のための何よりの優先事項なのではと考えます。直接垂れ流しの洗剤や油、汚れ等が混ざった生活排水が、自然環境の保護に良いことは絶対にはないと思いますので。</p> <p>駄文で失礼しました。</p> <p>またこういった機会を設けていただきありがとうございました。インターネットでテキストベースで提出できることは非常に有難かったです。</p> <p>30代、島内在住者の意見です。</p>
	WEB	<p>住民説明会で話しがあった『久米島らしさ』は重要だとだと思います。</p>
	WEB	<p>公共事業は久米島の20年後、50年後を考えて行って欲しい。島民人口が必ず減る将来に、維持・管理が可能な事業なのかよく考えて欲しい。また少しでも島の財政に体力があるうちに、不要な公共物の取壊しを行って欲しい。休校になった学校はそのまま放っておけば廃墟になる。</p>
	メール	<p>(1) 小中学校教育の充実の6.学校の適正規模・配置について (39頁への意見)</p> <p>【意見の趣旨】</p> <p>学校統合・再編計画の策定プロセスにおいて、町長部局による教育委員会への過度な介入が疑われる状況にあり、地方教育行政法および教育基本法が定める「教育委員会の独立性」と「政治的中立性」が損なわれている懸念があります。</p>

	<p>そこで、「配置」の検討に当たっては、特に審議会の構成や業者選定の在り方について、透明性の確保とプロセスの是正を強く求めます</p> <p>【具体的な意見と理由】</p> <p>1. 審議会委員の構成と中立性について</p> <p>現在、教育委員会の審議会に「町長の教育部門担当特別顧問」が委員として就任していることは重大な問題です。審議会とは教育委員会が首長から独立して専門的・客観的に判断するための諮問機関であるべきですが、首長の直接的な部下とも言える特別顧問が委員に加わることは、首長の政治的意向を審議結果に直接反映させる「不当な支配（教育基本法第16条）」を招く恐れがあります。</p> <p>2. 教育委員会の専権事項への実質的な介入</p> <p>学校の設置・廃止は地方教育行政法第21条に基づく教育委員会の専権事項です。しかし、町長部局が圧倒的多数を占める選定委員会で選ばれた業者が「具体的な統合計画」を策定し、さらにその業者が審議会の支援や議事録作成まで行う体制は、審議の結論を町長の政策目標へと誘導する仕組みと言わざるを得ません。</p> <p>3. 審議プロセスの形骸化と不透明性</p> <p>首長の意向を代弁する特別顧問が委員となり、首長側が選定した業者が事務局機能を担うという現在の構図では、審議会が単なる追認機関（セレモニー）と化し、住民や教育現場の多様な声が適切に反映されない危険性が極めて高いと考えます。</p> <p>4. 公教育の中立性を守るための要求</p> <p>学校統合は地域の未来を左右する重大事であり、効率性のみで判断されるべきではありません。町長部局主導の計画案を教育委員会に押し付けるのではなく、特別顧問の委員除外や業者への依存を改め、教育委員会が主体となって中立・公正な立場から再編の是非を議論することを強く求めます。</p>

2.住民説明会

■日時・会場

日時：2026年3月5日（木）19：00～20：00

会場：イーフ情報プラザ交流ホール

■参加者

住民：約7名

事務局：【久米島町企画財政課】 當間課長、城間班長 【受託者】（株）国建 山城、宮里

■内容

1. 開会・趣旨説明
2. 総合計画について
3. 新たな総合計画の策定
4. 住民意向
5. 質疑応答
6. 閉会



■概要（要約版）

住民説明会では、次期総合計画の策定に向け、「産業の活性化と産業間連携」「外国人就労者の受入れ」「イーフ地区での産業間連携」等を中心に意見交換が行われました。

1. 産業団体間の連携強化について

- 住民の意見

今後も人口減少が進む中、町民が将来にわたり「住んで良かった」と思える施策を着実に進めてほしい。特に産業の活性化は、人口減少への歯止めとなるだけでなく、教育分野にも影響をもたらす。現在、各種産業団体（商工会、農協、漁協、観光協会等）が個別に活動している印象を受けるため、人手不足などの課題に対して互いに協力し合えるよう、産業界の横のつながりをより一層強化してほしい。

- 久米島町の回答

次期計画の将来像は「未来につなぐ久米島らしさ」であり、その実現に向けて基本計画を取りまとめている段階である。アンケート結果からも日々の暮らしに課題を感じる町民は多く、産業の活性化は重点課題と認識している。産業団体間の連携推進については、すでにワークショップ等で各種団体から意見を伺っており、今後の実施計画や個別事業においても、連携が円滑に図られるよう町として支援していく考えである。

2. 外国人就労者の受入れについて

- 住民の意見

人口減少が進む中、島内で就労する外国人が増えている。国としても外国人就労者の受入れを推進している流れもあるため、外国人就労者の受入れや共生に関する取組を次期計画の中でも位置付けるべきではないか。

- 久米島町の回答

人手不足と住まいの確保は顕著な課題であり、外国人就労者は島内産業を支える重要な存在となっている。昨年11月に実施した交流会では、地域住民との前向きな交流も見られた。今後も人手不足への対応として、町としても外国人就労者の受入れと定着を推進していく考えである。

3. イーフ地区における産業間の組織づくりについて

● 住民の意見

観光関連事業所が多いイーフ地区において、地域内の産業団体間のつながりを強めるため、「通り会」のような組織を立ち上げたい。しかし、若手事業者の主体的な動きにつながりにくいため、行政からの後押しをお願いしたい。

● 久米島町の回答

産業間の連携については「基本施策 11」に位置付けている。いただいた意見は産業振興課や商工観光課等の関係部署と共有する。DMO（観光地域づくり法人）とも連携し、通り会のような組織づくりに関与できる余地があると考えており、実施計画の具体的な取組として位置付けられるよう調整を進める。

■質疑応答 （質疑：3 件）

- ① 次期計画の内容はやや漠然としており、具体的な実施段階には至っていない印象である。一方で、次期計画は「今後の確実な人口減少」を前提としている。人口が減少している現実を踏まえ、島民が将来にわたって「久米島に住んでいて良かった」と実感できる施策を、着実に推進してほしい。

具体的には、産業分野における取組が重要であるとする。産業が活性化すれば、人口減少に一定の歯止めをかけることが期待できる。また、人口問題は教育分野にも影響するため、学校運営や教育施設の統廃合といった課題にも関わってくると考えられる。

また、新たな取組を推進するのであれば、産業界における横のつながりをより強化する方向へ、もう一步踏み込んで進めてほしい。現時点において、商工会、農協、漁協、観光協会、舩関係の組合など、島の産業を支える主体は多いが、それぞれが個別に動いている印象がある。だからこそ、産業団体相互の連携をより深めることが大切である。そうした連携が進むことで、人材不足をはじめとする課題についても、互いに協力し合える環境づくりにつながると考えられる。

以上の点を、今後の計画推進の参考としてほしい。

- 【久米島町回答】補足になるが、三角ピラミッドで総合計画の体系図（配布資料 2 ページ）を示している。そこでは、一番上が基本構想、2 段目が基本計画（総合戦略を含む）、3 段目が実施計画という整理になっている。

現在の策定状況としては、このうち基本構想と基本計画について、最終的な取りまとめに入っている。基本構想は 10 年計画で、町がどこに向かって、どのような島づくりを進めていくのか、その将来像を定めるものになる。次期計画の将来像（案）は、「未来につなぐ久米島らしさ」と掲げている。

そして、基本構想（将来像・島づくりの基本目標）を実現するための具体的な取組の方向性を定めるのが基本計画になる。配布資料の 5 ページでは、島づくりの目標として 4 つの基本目標を置いており、暮らし、産業、自然、そしてそれらをつなぐ統合・調和といった考え方で、島づくりの全体像を整理している。将来像

をただ掲げるだけではなく、その実現に向けて、どの分野で、どの方向へ取組を積み上げていくのかを示すのが、島づくりの基本目標の役割だと言える。

将来像のイメージは、現行計画の将来像「島人みんなで織り上げる未来」から受け継いでいる部分もある。そこには、島の人たちが協力し合いながら島をつくり上げていくことを大切にする姿勢がある。次期計画では、その考え方を踏まえつつ、「未来につなぐ」という言葉に、久米島の良さ「自然、歴史、文化、そして人のぬくもり等」を、これからも持続的に残していく意図を込めている。住民が感じている「久米島らしさ」を丁寧に守り、育て、次の世代につないでいくことが、次期計画の根幹となる。

島づくりの基本の取り組みとして基本施策（配布資料 15 ページ）があり、その中から具体的な施策の展開がある。

いただいた意見のとおり、産業団体間の連携の推進は重要であるとする。町としても、次期計画の策定に向けて、各種経済団体の関係者を集めたワークショップを実施した。また、本計画の策定に係る審議会においても、各種経済団体の関係者が委員として参加している。今後、実施計画を推進していくに当たっては、産業団体間の連携がより円滑に図られるよう、町としても取組を進めていく考えである。

次期計画のポイントとして、「将来フレーム」を整理している。次期計画の策定に当たり実施した住民アンケートでは、「久米島への愛着」及び「誇り」について、肯定的な回答が高い割合を占めた。一方で、日々の暮らしについては、「やや苦しい」「苦しい」とする回答が約 4 割を占めている。町民の生活を支えるためには、産業の活性化が重要である。こいただいた意見は、次期計画において重点的に取り組むべき内容であると認識しており、今後の実施計画の策定及び個別事業の具体化に向けた検討に反映していく。

いただいた意見は、次期計画において重点的に取り組むべき内容であると認識しており、今後の実施計画の策定及び個別事業の具体化に向けた検討に反映していく。また、いただいた意見については、庁内関係部署や経済団体とも共有し、取組の推進を図っていく考えである。

- ② 人口減少が進む一方で、島内で就労する外国人は増加しているように感じる。全国的にも人口減少が進む中、就労を目的として海外から来る人が増えている状況にある。次期計画においても、外国人就労者との共生や受入れに関する取組を位置付けることができるのか。文化や言語の違いなど、さまざまな課題があると考えられるが、国として受入れを進めている流れもあるため、町としても計画のどこかに盛り込む必要があるのではないかと。

- 【久米島町回答】人口減少に伴い、近年特に顕著となっている課題は、人手不足と住まいの確保である。空き家は増えている一方で、実際に居住可能な住宅が見つかりにくい状況も生じている。いただいた意見にもあるとおり、労働力の確保という点では、特定技能や技能実習により来島した外国人就労者が島内産業に従事し、人手不足の解消に大きく貢献している。

昨年 11 月には、技能実習生等として来島している人が多いことを踏まえ、受入れ事業所と連携しながら交流会を実施した。外国人就労者が働き手としてだけでなく、地域住民と交流することで、島での暮らしを前向きに受け止めている様子もうかがえた。こうした取組を継続しつつ、今後も人手不足への対応として、外国人就労者の受入れと定着を進めていく考えである。

外国人就労者については、年間およそ 30 人が移住しており、定住率も年間 75～80%程度と高い水準にある。今後、住まいの確保がさらに進めば、移住者の増加が期待され、その結果として島内産業を支え、各事業所で働く人材の確保にもつながると考えられる。このため、住まいの課題も含め、人手の確保に取り組んでいく。

また、次期計画では、2035 年の目標人口を 6,500 人としている。人口減少は全国的な傾向であり、今後も減少が見込まれる中で、地域の持続性を確保するため、目標人口の達成に向けた取組を進めていく。あわせて、島に住む人の幸福度や満足度を高めていくことも重要である。「住んでよかった」「この島に住んでいて幸せを感じる」といった実感が広がるよう、暮らしの質の向上に力を入れていく考えである。

- ③ イーフ地域は、他地域とはやや異なる特色を有しており、観光地域として観光関連事業所が多い。地域としても、これまで観光を軸とした取組を進めてきた。一方で、観光事業者と一般住民との間では、認識の差が生じる場面もある。

イーフ地区として、こうした課題の改善に努めているが、近年は新規参入する事業所も増えていることから、地域内のつながりづくりを一層進める必要があると感じている。そこで、イーフに商店街の通り会のような組織を立ち上げ、観光につながる事業の企画・実施や、観光業界内のまとまりと連携を生み出す基盤としていきたいと考えている。

しかし、既に若手の事業所関係者にも声かけを行っているものの、現時点では主体的な動きにつながりにくい状況にある。行政としても何らかの形で後押しできないか。

- 【久米島町回答】町としても、産業間の連携については「基本施策 11：連携する産業振興体制づくり」に位置付けているところであり、いただいた意見については、町の関係部署（産業振興課、商工観光課等）と共有し、検討していく考えである。

また、観光地域づくり法人（DMO）と連携しながら、飲食店組合や、御指摘のあった通り会のような組織づくりについても、関与できる余地があると考えている。今後は、実施計画においても具体的な取組として位置付けられるよう整理し、担当課と共有した上で、産業団体の関係者と連携しながら進めていく。

以上

3.職員ワーキング

第5回久米島ビジョンラボ結～島ぬ3時茶あ会議～まとめ

■開催日程__令和8年3月5日15:30～17:30

■参加者__11名（グループ①4名、グループ②3名、グループ③4名）

■第5回ワーキングの狙い

- 「施策19_住民にわかりやすい行財政運営」及び「施策20_町民みんなで推進する総合計画」について、個人で取り組むこと、課として取り組むことを考える。
- 住民との対話の在り方・方法をデザインしてみる。

■住民との対話の在り方・方法に関する考察

グループワークでは、「住民にわかりやすい行財政運営」と「町民みんなで推進する総合計画」の実現に向け、住民との対話のあり方をディスカッションした。従来のワークショップは、内容が難しく自分ごととして捉えにくいことや、改まった場では本音を出しにくいことなどの課題を共有した。こうした現状を踏まえ、より住民に寄り添った対話に向けて、主に3つの解決案が提案された。

1. 「呼ぶ」から「出向く姿勢」へ

行政が単独でワークショップを企画しても参加者の確保は容易ではないため、住民を会場に「呼ぶ」のではなく、行政側から住民のもとへ「出向く」姿勢が重要だという意見が挙がった。具体的には、地域のお祭りや集落での清掃活動後の集まりなど、住民が自然に集まる場に足を運んで対話する手法が有効だと考えられた。

2. ついでに参加できる工夫

説明会では、いきなり行政計画の説明そのものから入るのではなく、住民に身近な「農業」などを切り口にすることで、暮らしと総合計画とのつながりを実感しやすくなるという意見が出た。あわせて、生活に役立つミニ講座の開催や、日用品・野菜などの特典を用意することも有効と考えられた。こうした工夫により、「ついでに参加してみよう」と思える気軽な動機を生み出し、参加への心理的ハードルを下げることが重要であるとされた。

3. 話しやすい・本音が出やすい環境づくり

住民のシャイな気質や、人前で意見を述べることへの苦手意識を踏まえると、参加者が前に出て発言する形式のワークショップは適していないとの指摘があった。そのため、「ゆんたく」を楽しむようなリラックスした雰囲気の中で、雑談を交えながら自然に本音が引き出される場づくりが重要とされた。あわせて、そうした場で住民の意見を上手に引き出せる人材育成も大切と意見があがった。

まとめ

今後のワークショップには、従来の「呼んで、説明する」という一方通行の進め方から脱却することが求められた。今回示された手法を実践し、日常の延長線上で住民の本音を丁寧に拾い上げる「新しい対話の形」を模索していくことが、町民とともに作るまちづくりの実現につながると考えられた。

【グループ1】

ワーク①なぜ住民は参加しないのか、なぜ伝わらないのか	
<ul style="list-style-type: none"> • 内容が細かい、項目が多過ぎる • 計画の存在を知らない • 関心がない • そもそも、WSの開催等情報が浸透していない？ • 意見を述べるのがはずかしい • 何の為の計画なのか理解できていない • 参加できない 	<ul style="list-style-type: none"> • 興味がない • よく分からない • めんどくさい 忙しい • 参加しにくい雰囲気 • 字が小さい • 内容が難しい • 住民生活へのつながりがイメージしにくい？
ワーク②ワークショップの企画案	
<p>関連施策：「施策 06_くらしの立つ農業地域づくり」</p> <p>テーマ：「ワタシの農業 アナタの農業」</p> <p>ターゲット（4つ）：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 農業従事者、畜産従事者、キビ従事者、野菜従事者、花き従事者 • 家庭菜園等の自宅農家 →ねらい：久米島の農業の課題を見出す • JA 関係 肥料・流通などその他 • 新規就農に関心のある人々 →ねらい：担い手不足の解消 	

その他解決案：

- ・ 総合計画の「一本柱」を見える化、キャラクタを作る「わ〜くん」

■グループワーク・発表時の主な意見

現状の課題

- ・ 計画の内容が細かくて難解なことや、自身の生活とのつながりがイメージしにくい。さらには関心の薄さや人前で発言することへの恥ずかしさといったことが参加を阻む要因となっている。
- ・ 企画側の課題として、参加者に対して「何のための場であり、何を目的にしているのか」というワークショップの目的を明確にする必要がある。また、現状では議論を適切に進行できる外部講師に頼らざるを得ないことから、今後は地域内で対話を円滑に進めることができる「地元ファシリテーター」の育成が重要である。

解決策

- ・ 島内には農業関係者が多いため、生活に身近な「農業」をテーマに据える。身近な農業と総合計画との関わりを知ってもらうことで、総合計画への理解を深めるきっかけとする。
- ・ 参加を促す工夫として、ワークショップの本題に入る前に「肥料の正しい使い方」や「家庭菜園の情報」など、生活に役立つミニ講座を実施する。また、参加や発言に対する特典（肥料や野菜のプレゼントなど）を用意し、住民の関心を惹きつける。

【グループ2】

ワーク①なぜ住民は参加しないのか、なぜ伝わらないのか	
<ul style="list-style-type: none">・ WS では人が集まらない。・ 興味が無い・ まず何をしているのか？何の為に？・ 現行施策がどうなっているのか浸透していない？・ 当事者の意識が低い・ 説明不足、本気で集めていない	<ul style="list-style-type: none">・ 計画に対して住民の関心のある内容が小さい・ 参加しなくても勝手に進むものだと（思っている）・ 分からないから参加しづらい・ 言葉が難しい・ 自分にも関係する事だと思っていない
ワーク②どうすれば参加してもらえるか	
<ul style="list-style-type: none">・ 既存のイベントとの組み合わせ、マイクパフォーマンス。・ 島民＝株主の考えを	

■グループワーク・発表時の主な意見

現状の課題

- ・ ワークショップを企画しても、単独での開催では人が集まらないのが現状である。過去の農協関係者向け説明会でも、対象者 100 名に対して参加者が 10 名程度にとどまる事例があった。対象者に「自分ごと」として捉えられていないことが要因と考えられる。
- ・ 行政の言葉や制度が難解であり、自分に関係する事柄だと伝わっていないことが、「分からないから参加しづらい」という状況を生んでいる。

解決策

- ・ 対象が幅広い施策に向けた解決策を検討した。例えば子育て施策の場合、ワークショップ単独では人が集まらないため、「ヤングフェスティバル」や「久米島まつり」「産業まつり」など、すでに人が集まっている既存イベントに相乗りして対象者の声を集める。あわせて、無礼講のようなフランクな場とすることで、住民も「気軽に意見を言っているのだ」と思える雰囲気づくりが重要である。
- ・ イベント会場など人が集まっている場所に企画側から積極的に出向き、対面での雑談ベースで話を聞きに行く姿勢をとることで、対話のハードルを下げる。

【グループ 3】

ワーク①なぜ住民は参加しないのか、なぜ伝わらないのか	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間が合わない ・ あきらめている ・ 計画で何がかわるかわからない ・ 興味がない ・ 子どもを預けてまではいけない ・ 町が変わっている実感がない ・ 声が届くのか不明 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 堅苦しい ・ 分かりにくい ・ つまらなさそう ・ そもそも計画が何なのか知らない ・ 誰もいなさそう ・ 参加して得られるものがない ・ 楽しくなさそう・・・
ワーク②ワークショップの企画案	
<p>関連施策：「施策 20_町民みんなで推進する総合計画」</p> <p>参加してもらうための「4つの仕掛け（軸）」！</p> <p>① サプライズ・ワークショップ</p> <p>② 字ごとに開催</p>	

③ 酒あり絶対

④ 何かもらえる

その他の仕掛け

- 何かのついでに参加できる
- 島人じゃない人が会をまとめる
- 会を回す、すごい人を招集する
- 上手に回す人、話を（引き出す・聞く）

ねらい：

- WSと思わせない
- 本音（を引き出す）

■グループワーク・発表時の主な意見

現状の課題

- 島の人々はシャイな方が多く、みんなの前に出て自分の意見を発表するような形式だと苦手意識が先行してしまう。
- 「テーマ」を設けて改まって話し合おうとすると、参加者が萎縮してしまい、意見が出にくくなる。
- シラフの状態や公式な場では、島の住民が本当に思っていること（本音）をなかなか話してくれない。

解決策「サプライズ・ワークショップ」

- ワークショップのためだけに人を呼ぼうとしても集まりにくいいため、字（あざ）の清掃活動の後など、すでに人が集まってお酒を飲む場をそのまま活用する。
- お酒が入って「ゆんたく（おしゃべり）」している状態であれば、話し好きになり、自然と本音が出やすくなる。
- 「日用品（洗剤など）がもらえるから行ってみよう」と思えるような気軽な動機づけや、参加することで得られる明確なメリットを設け、参加のきっかけとする。
- 前に出て場を仕切るのではなく、会話に混ざって上手に本音を引き出せる人を配置する。また、スマートフォンを置いて録音しておくなど、後から自然な会話の中から意見を拾い上げる手法をとる。